

5 家庭・地域との連携を生かした取組

道徳教育を行うのは学校ですが、児童生徒の道徳性を育成するためには、家庭や地域との連携が不可欠です。道徳教育に関する学校の考え方や取組を分かりやすく伝え、連携を深めるためには、どのような取組を行えばよいのでしょうか。

【ポイント】

- 学校の道徳教育についての考え方や取組を積極的に発信して、学校での道徳教育がどのように進められているかよく理解してもらいましょう。
- 保護者や地域の願いにも十分配慮した道徳教育の重点目標や学年の指導の重点を設定し、保護者や地域の方々と共に語れる道徳教育を推進していきましょう。
- 家庭や地域の方々に、道徳教育への関わりをもってもらう機会や方法を工夫しましょう。中学校区で共通理解を図って取り組む方法は、小・中学校の連携も深まり、効果的です。

1 家庭や地域への情報発信

家庭・地域との連携には、学校の道徳教育についての考え方やそれに基づく取組について、積極的に情報を発信して、よく理解してもらうことが大切である。

同時に、家庭や地域の方々にいかに道徳教育に関わってもらおうかということも大切であり、家庭・地域の方が参加しやすい方法を工夫したい。



2 地域ぐるみの道德教育の充実、推進

- (1) 学校評価において道德性の育成や道德教育に関する評価項目を設定し、実態や課題を把握するとともに、課題の解決策を設定する。その際、例えば「地域ふれあい清掃活動の実施」など、地域ぐるみで取り組む視点を組み込みたい。
- (2) 学校評議員会等の対外的な会合の機会に、道德教育に関する学校の課題やその解決のための具体策を提示するとともに、その成果について具体的な児童生徒の姿や数値化できる成果の提示など分かりやすい説明を行う。
- (3) 地域の自治会との情報連携・行動連携に努め、児童生徒より幼い子どもたちや高齢者など幅広い世代が参加する活動を通して、地域ぐるみでの道德教育を推進する。



【地域の人と一緒に取り組む清掃活動の例】

3 小・中連携による道德教育の充実、推進

中学校区を単位として義務教育9年間で道德教育を推進することも重要である。推進に当たっては、連携に関する既存の会を活用し、各校の道德教育推進教師が参加し、児童生徒の道德性に関する実態把握や共通理解を図る取組等が考えられる。また、小・中学校だけの取組とせず、地域ぐるみの取組としたい。

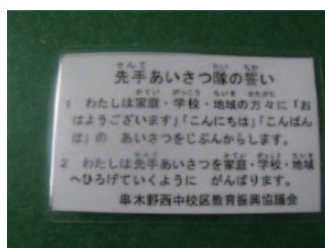
【共通理解、共通実践項目を設定した取組の例】

- (1) キャッチフレーズ ～9年間で花を咲かせよう～
- (2) 家庭学習習慣づくり強調週間の設定・・・中学校の定期試験期間に合わせて、各小学校でも保護者と連携して家庭学習の充実に取り組む。(ノーテレビ、ノーゲームタイムの設定)
- (3) 小中一貫した学習のしつけ、構えを習得のために、中学校の「授業の受け方5か条」を各小学校の実情に応じて自校化し実践する。
「授業の受け方5か条」
 - ア チャイムの前に授業の準備をすませ、着席しておく
 - イ 全員で元気よく大きな声で、はじめとおわりのあいさつをする。
 - ウ 正しい姿勢で集中して授業を受ける。
 - エ 大きい声で発表し、他の人の意見はしっかりと聞く。
 - オ 学習用具を大切にし、貸し借りはしない。
- (4) あいさつ、身なりなどの基本的な生活習慣指導の重点化を図る。
 - ア 立ち止まっての「先声後礼」あいさつの徹底
 - イ シャツ入れ指導と靴の踵踏みつぶし禁止の徹底
 - ウ 給食時間内完食の指導(中学校は給食時間35分)

【地域あいさつ運動の取組】

学校・家庭・地域の三者で年度当初、共通実践事項を定め実践する。

<共通実践事項> 本年度は「先手あいさつ運動」を各学校で取り組む。



4 心の教育の日の活用

各学校で設定している「心の教育の日」を道徳の授業の公開や学校の道徳教育に関する取組の掲示等による紹介など、学校の道徳教育に関する取組を理解してもらう機会として活用する。授業アンケート等により、保護者等の意見を聞くよい機会でもある。

また、授業で保護者が子どもと話し合いをしたり、ゲストティーチャーとなったりするなど、参加型の授業も工夫の一つである。



5 ゲストティーチャーの活用

保護者または地域の方々をゲストティーチャーとして招き、道徳の時間の授業に参加してもらうことは、三者連携をさらに高めるよい機会である。特に、道徳の授業の価値の一般化を図る段階などで、効果的なゲストティーチャーの活用を工夫したい。



6 小中連携による相互授業参観

各地域で取り組まれている小・中連絡協議会等の小中連携の機会に道徳の時間の授業を通して研修会を行うことも効果的である。例えば、年複数回ある場合の1回は必ず道徳の時間の授業を取り入れるなど、相互に研修を深める機会としたい。道徳の時間の授業参観を通して、指導法や児童の情報交換・共通理解を図ることができるよい機会である。



7 「私たちの道徳」を活用した家庭への働きかけ

児童生徒に配布されている「私たちの道徳」は家庭や地域での活用にも効果的な教材である。

保護者の意見や思いを書いてもらうページなど、関連する道徳の時間で取り扱った後、または、事前の取組として、家庭で「私たちの道徳」を一緒に見ながら、取り組んでもらう機会を積極的に設けたい。

保護者会の際に、活用の仕方について説明したり、活用方法を記したプリントも一緒に配布したりするなど、保護者が利用しやすい工夫をすることも大切である。

実際の教材を通して、道徳教育の取組を理解してもらうと同時に、児童生徒の思いや考えを理解してもらうよい機会になる。

「私たちの道徳」を読んで感想を書こう

氏名 ()

※p 8 4を読み、親子間で言われて嬉しかった「ありがとう」を書きましょう。

自分

保護者

※p 1 8 4「誰かのために」を読んで感じたことを書きましょう。

※保護者の方へ
夏休み期間、家の手伝いはしっかりできたでしょうか。夏休みの様子についてお聞かせください。

